

日 時：平成29年7月25日（火）午後7時00分～午後9時04分

場 所：北とぴあ 14階カナリアホール

1 開 会

2 議題

- (1) 北区の人口の現状について
- (2) 北区版総合戦略 重要業績評価指標（KPI）の平成28年度実績について
- (3) 地方創生加速化交付金活用事業の実施について
- (4) まち・ひと・しごと創生基本方針2017について
- (5) 総合戦略における「事業化に向けて検討を要するもの」について（意見交換）
- (6) その他

3 閉 会

出席者	加藤久和会長	岩崎美智子副会長	遠藤薫委員
	池本洋一委員	大塚麻子委員	越野充博委員
	永沢 映委員	菅原 修委員	
	今井直樹委員	内海千津子委員	柴田恵理子委員

質疑応答

○会長

皆さん、こんばんは。これより「北区まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」、第1回を開会させていただきます。

本日も、委員の皆さんに、活発にご議論いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

なお、今回より、菅原委員に新たにご参加いただいております。また事務局側も中嶋政策経営部長が新たに参加しております。最初に菅原委員、中嶋部長ここで簡単に自己紹介等をお願いいたします。

○委員

北区しんきん協議会の菅原と申します。今回初めて参加いたしますが、いろいろなお話をうかがって役立つようにしていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○区

みなさんこんばんは、この4月から政策経営部長となりました中嶋でございます。皆様からのご意見を踏まえて、総合戦略を少しでも前へ進めていければと考えております。よろしくお願いいたします。

○会長

ありがとうございます。

本日は篠崎委員より欠席、越野委員より遅れる旨のご連絡をいただいております。榎本委員と遠藤委員も遅れているようですが、時間が過ぎましたので、進めさせていただきます。まずはじめに、事務局より配付資料の確認をお願いいたします。

○区

企画課長筒井でございます。本年度もよろしくお願いいたします。

本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

本日の議題ですが、次第にありますとおり、（1）北区の人口の現状についてから（6）その他までの6項目となります。まずは配付資料の確認をさせていただきます。

事前に送付いたしました資料が8点ございます。

（資料1）委員名簿、（資料2）北区の人口の現状、（資料3）北区版総合戦略 重要業績評価指標（KPI）の平成28年度実績一覧、（資料4）地方創生加速化交付金活用事業の実施について、（資料5-1）まち・ひと・しごと創生基本方針2017概要版、（資料5-2）まち・ひと・しごと創生基本方針2017について、（資料6）総合戦略における「事業化に向けて検討を要するもの」について、（資料6別紙）。

また、本日式次第を席上に配付させていただいておりますのと、あわせて内海委員からお持ちいただいた資料、A4横のものが、2枚ほどあります。

以上でございますが、何か不足等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

○会長

ありがとうございました。それでは、早速、本日の議題に入りたいと思います。

今、ご説明がありましたように、本日の議題は、北区の人口等の現状について。それから、平成28年度の実績とそして、意見交換という形になります。

なお、本日も、委員の皆様方のそれぞれのお立場からご意見をいただきたいというふうに思っておりますので、事務局からの説明の後、順番にお一人5分程度、ご意見をお聞かせいただければというふうに思っております。それでは、北区の人口等の現状について、北区版総合戦略 重要業績評価指標（KPI）の平成28年度実績について、地方創生加速化交付金活用事業の実施について、まち・ひと・しごと創生基本方針2017について、事務局より一括して資料の説明をお願いいたします。

○区

では、お願いいたします。まず、議題の（1）番、北区の人口の現状についてで、資料の2番をご覧くださいと思います。

こちらは、北区人口ビジョンの中でお示ししているデータのうち、新たなデータが入手できた項目につきまして、今回、お示しをしているものでございます。

まず、1ページでございますが、図表の3、4でございます。いずれも、北区の住民基本台帳によります2016年のデータを追加しているという内容でございます。

まず、上の図表3は出生数及び死亡数の推移です。死亡数に関しましては、ご覧のとおり、ほぼ横ばい。出生数につきましては、2011年からずっと増加の傾向にあるということでございます。

その下、図表の4番については転入数及び転出者の推移というものでございます。こちらも転入超過の状態が、引き続き続いているというような形でございます。

次に、2ページにお進みください。図表の5番ということで、総人口の推移に与えてきた自然増減及び社会増減というものの、こちらも2016年版を加えたものでございます。

2015年から2016年の変化を見ていただきますと、社会増減の増加が大きくなっておりまして、全体の人口増加にもつながっているというように言えるかと思えます。

それで、自然増減につきましても、前のページに、最初の1ページにありましたように、死亡数は、ほぼ横ばいであるものの、出生数が伸びているということもありまして、マイナス幅が、2015年よりも減少しているというようになってございます。

次に、3ページにお進みください。図表の6番、合計特殊出生率の推移でございます。国、東京都、特別区のところを見ていただいて、いずれも2014年から2015年というところも上昇しているということでございます。

北区を見ていただきますと、2014年では、1.20であったものが、2015年には、1.22ということで、伸びているような状況です。

ただ、国においては、参考でお示しをしておりますが、2016年には1.44ということで2015年と比較して、国全体としては、0.01ポイント下がっている状況でございます。

北区の2016年のデータにつきましては、11月ごろ明らかになるという予定でござ

いますので、次回のこの会議では、お示しできると思います。

次に、4、5ページをご覧ください。こちらは、図表の9番ということで、他区市町村との転入・転出の状況でございます。4ページが転入数ということで、下段が2015年、上段が2016年というものでございます。

転入につきましては、上位4位の自治体に変化はないというような状況で、5位以下のところで、若干変化があるというような状況でございます。

5ページをご覧くださいますと、こちらは、転出に関してでございます。こちらは、ほぼ上位というか、中位ぐらいまでは変化がないような状況でございます。2015年と2016年を比べますと、新宿区と戸田市の順位が入れかわっている程度という変化でございます。

次に、6ページ、7ページにお進みください。こちらは、図表の10番ということで、他区市町村との転入超過・転出超過の状況というものでございます。

6ページを見ていただきますと、転入超過となっている自治体につきましても、こちらは、上位の1位、2位に変化はなく、3位以下の自治体のところで多少入れかえがあるというような状況です。

それで、7ページの転出超過数というところで見ますと、2015年と16年で上位の板橋区と川口市が入れかわっているというような変化があるというところでございます。

次に、8ページにお進みください。こちらは、図表の11番、転入前の住所地別割合というものでございます。こちら、下が2015年で、上の表が2016年というものでございますが、ほぼ割合としては、同様になっているということで、大きな変化は見られない状況になってございます。

9ページに関しましては、転出後の住所地別割合ということでございますが、こちら大きな変化というところは、見られない状況でございます。

次に、10ページにお進みください。こちらは、図表の13番、外国人人口の推移でございます。こちらは、2013年以降増加の傾向、増加の一途をたどっているということになります。やはり2016年、17年を見ても、増加の勢いも強まっているというように思います。

参考を見ていただきますと、最新の情報ですが、29年7月1日現在では、外国人人口2万410人ということになってございまして、北区の総人口に占める割合も、約5.9%ということで、非常に増加をしているということでございます。

次は、11ページと12ページが、同じ図表の15番でちょっと表裏になってしまっていて見づらいかと思いますが、こちらは、他区市間の通勤による交流人口でございます。2015年の国勢調査のデータが出ましたので、それに基づいて今回、2015年版を追加したというものでございます。

こちら、大きな変化というところでは、それほど特筆すべきところはないかなというように思っていますが、ちょっとデータの整理の仕方だけ、2010年のところと15年のところ変えているところがございます。

というのも、今回の2015年のデータにつきましては、さいたま市、横浜市、川崎市などにつきましては、行政区単位で掲載を公開させていただいているところが、2

010年のところと変わっています。

2010年のときは、政令市単位と行政区単位と両方混在をしてしまっていたということがございましたので、少し整理をさせていただきました。ここは、データの出し方として変えたところがございます。

次に、13ページにお進みください。こちらは、図表の19番、年齢階級別の就業率でございます。こちらも国勢調査のデータが出たということでお示しをできたものでございますけれども、女性の就業率が、結婚や出産を機に離職する方が多くなる、いわゆるM字カーブの状況を見るものでございます。

北区におきましては、35歳や44歳のところを見ていただいても、2010年には、60%台の数値を示していたんですけれども、今回、2015年を見ていただきますと、70%を超えたというところがありまして、M字カーブのカーブが若干緩くなったといえますか、改善されたと言っているのかと思いますが、という変化が見られます。

次に、14ページ、15ページ、こちらも就業率に関しての図表でございます。図表の20番ということで、若者と高齢者の就業率ということで、14ページが、2015年の国勢調査の結果で、2010年が15ページということになってございます。

こちらにつきましては、特に、65歳以上の就業率につきまして、2010年のときは、男性では最下位、女性も下から2番目というようなものでございましたけれども、2015年を見てみますと、男性も最下位から脱出をしております。それで、下から4番目になっています。

それで、女性の場合は、下から7番目かと思いますが、高齢者の方の就業率が上がっているというような変化が見られます。

以上が、資料2のご説明です。

次に、進ませてもらいたいと思います。

次、議題の(2)番のところです。北区版総合戦略 重要業績評価指標の28年度実績についてということで、資料の3番をご覧くださいと思います。

こちらは、主なもののみご説明をさせていただきたいと思いますので、ご了承ください。

まず、1ページをご覧ください。こちらは、基本目標Ⅰ、「子育てするなら北区が一番」をより実感できるようにするという目標に関する指標でございます。

上のほうに数値目標を設定している項目ということで、三つございますけれども、最新のデータがあるものが、二つ目の子育てファミリー層・若年層の人口、20から49歳の人口でございます。28年1月1日では、15万57人であったものが、29年1月1日現在で、15万3,388人まで伸びているというような状況でございます。

次に進みます。2ページをご覧ください。こちらは、基本目標Ⅱの女性、若者、高齢者の活躍を応援するでございます。こちらは、数値目標を5項目ほど掲げてございますけれども、上のほうで、女性、若者、高齢者、それぞれの就業率を設定しております。これは、先ほども資料の2でご説明をさせていただいておりますけれども、いずれも伸びているというような形でございます。

特に、高齢者の就業率を見ていただきますと、27年10月のときに、27.5%となっております。現在の総合戦略では、31年度末までに27.0%という目標を掲げておりましたが、目標を現状超えているということでございます。

そして、数値目標の項目の一番下のところ、65歳健康寿命のところでございますけれども、こちらは、男性に関しては、上昇しているのですけれども、女性に関しては、28年度末現在で、82.31歳ということで、若干下がっているというような状況でございます。

こちらは、施策の方向の(3)番のところもご覧いただきたいのですが、高齢者の健康づくり・生きがいづくりという項目がございます、そこの中の三つ目のところに、高齢者いきいきサポーター登録者数という項目があります。ここでは、KPI、28年度末で666人というような形になっておりますが、31年度末の目標1,500人というように掲げていまして、ここは、もう少し力を入れてといたしますか、事業の中身を検証しながら、登録者数が伸びるような何らかのてこ入れが必要なのかなというように、捉えているところでございます。

次に、3ページにお進みください。基本目標Ⅲ番でございます。創造へのチャレンジによって、地域産業の活性化を図るという項目でございます。こちらは、数値目標を掲げているのが、四つの項目がありますけれども、新しいデータがあったものが、創業支援事業計画による創業者数というところでございまして、こちらは28年度で100人ということになっておりまして、類型で28年度末172人ということになってございます。

最終的に目標は500人ということなので、このペースを維持できると、何とか目標を達成は可能になるかなというように捉えてございます。

次に、4ページをご覧ください。こちらは、基本目標のⅣ番、まちづくりの一層の推進を図り、北区の個性や魅力を発信するというものでございます。ここでは、数値目標を掲げている項目の一番下、五つ目になりますが、住みたいまちランキングというところがございまして。こちら見ていただきますと、27年度末で31位ということになったのですが、残念ながら、最新のデータで28年度末のデータで38位ということで、若干下がってしまったというような状況でございます。

この点につきましては、後ほど、もし、池本委員から何かありましたら、コメントをいただけたと思います。

次に、5ページをご覧ください。こちらは、中段からが基本目標の5番ということで、他自治体と共に発展できる取り組みを進めるというものでございます。

それで、数値目標を掲げている項目も二つあるのですけれども、KPIを設定している項目も含めまして、こちらは、資料の4番の加速化交付金を活用した事業の中で、他自治体との連携交流についてご説明をさせていただきたいと思っておりますので、ここでは、省略させていただきます。

資料の3につきましては、以上でございます。

続いて、資料4まで行かせていただきます。こちらは、議題の三つ目になります(3)番、地方創生加速化交付金活用事業の実施についてということでございます。資料の4をご覧ください。

昨年度の第2回目のこの会議におきましても説明をさせていただきましたが、二つの事業が28年度末で終了いたしましたので、その実施結果についてご報告をするという内容でございます。

地方創生加速化交付金ですけれども、国の補助事業ということで、昨年度、北区では、

2事業交付決定をされて取り組んだというものでございます。

まず、一つ目の事業でございますが、(1)番ということで、1ページのところです。互いの魅力を生かしたWIN-WINの自治体間連携・交流推進事業ということでございます。こちらは、1ページの上のほうにもありますが、自治体間で互いの強みを生かし合う関係を構築しながら、活力あるまちの実現を目指すことを目的に取り組んだものということでございます。

それで、事業の内容は、①番から③番までの三つということでございます。

まず、①番でございますけれども、友好都市と連携したPR動画を作成いたしました。北区の友好都市は、三つの自治体がございますけれども、3自治体と力を合わせまして、それぞれの自治体の持つ魅力をまとめ、PR動画をつくったというものでございまして、現在、北区のホームページからも見ることができます。

6月のイベントでもこちらのDVDを流させていただいたというものでございます。

②番、二つ目の内容ですけれども、友好都市との研究会の開催ということでございまして、昨年度、12月と2月に北区も含めました四つの友好都市・自治体が顔を合わせまして、これまでの交流事業の振り返りですとか、新たな連携施策の検討というものを行いました。

一つの成果といたしましては、今年の6月に友好都市協定締結20周年になりましたので、その記念イベントを実施しました。その際に、四つの自治体でさらなる連携を図っていきましょうということで、連携を図っていくこと、もう一つは、こういった研究会、顔を合わせた会議を今後も開催していきましょうといったことについて、覚書という形で書面で締結をさせていただきました。これまでは、北区の友好都市ということだったので、例えば、酒田市さんと北区という1対1の関係であったんですけれども、今回は、その四つの自治体が顔を合わせていろいろ話し合いをしたり、イベントをしたりしまして、1対1の関係が、四つの自治体がつながる面的な関係づくりができたということでございまして、一つ意義のある取り組みができたかなというように思っております。

三つ目が、調査研究ということになっておりますけれども、こちらは、友好都市に限らず、これまで北区と何らかの交流のあった自治体を中心に、それぞれの自治体の持つ強みなどの調査をさせていただきました。今後の交流ですとか、連携事業の取り組みを考えるに当たりまして、参考として活用していきたいというように思っております。

そして、下のほうにお示しをしているのが、この事業を国に申請するに当たりまして、KPIを設定するといえますか、KPIもあわせて出す形になったのですけれども、北区版の総合戦略から抜粋して、この設定をしたKPIというものでございます。

今回、(1)番の自治体間連携の事業につきましては、四つのKPIというものを設定しまして、事業申請時の数値を現状値といたしましてお示しし、本事業終了時及び数年後の指標値というものも提出をしてきたところです。

それで、実績につきましては、年度末、平成28年度末の段階で、数値の把握が可能だったものにつきましてお示しをしているというものでございます。

これが、一つ目の事業の中身でございます。

次に、2ページをご覧ください。こちらが、加速化交付金活用の二つ目の事業ということでございまして、(2)番としまして、子育てしながら働く女性・世帯の輝き応援事業

というものでございます。

子育て中の女性が、多様な働き方を選択でき、若い世代の経済的安定ですとか、自分らしく輝くことができる状態を目指した事業というものでございます。

この事業ですけれども、大きく分けまして、三つの内容というようになってございます。

まず、一つ目の事業内容ですけれども、1番でお示ししておりますが、社会復帰支援事業というものでございます。これから働くためのモチベーションの持ち方ですとか、現在働いている女性が抱える悩みの解決方法などにつきまして、必要な知識や情報を提供していくというコンセプトのものでございます。

これが①番で、働き続けたい女性向けのセミナーの中身でございます。実績等は、こちらにお示しをしているような形でございます。

②番としましては、印刷業界の女性向けクリエイターのための復職準備セミナーというものですけれども、北区の中で多い業種といたしますか、強みのある業種の一つであります、印刷業界の女性向けクリエイターのための準備セミナーということで開催いたしました。

三つ目のところ、③を見ていただきますと、こちらは、中小企業経営者向け女性活躍セミナーということでございます。こちらは、経営戦略としての女性登用の意義と効果等をテーマに講演会を行ったというものでございます。

そして、3ページにお進みいただきますと、この事業の二つ目、三つ目の柱ということになりますが、2としまして、マッチングシステムの構築というものでございます。こちらは、育児中の隙間時間などを利用して、働きたいと考えている女性と専門性を持つ労働力を欲している事業者・企業をつなぐマッチングシステムを構築していくという事業内容でございます。

三つ目の事業内容でございますが、子連れワーキングスペースの開設ということでございまして、在宅・起業して働く女性を支援するためのワーキングスペースをモデル的に開設しまして、課題等を検証してもらおうといったような事業内容でございました。

この2番目のマッチングシステムの構築と三つ目の子連れワーキングスペースの開設、こちらの事業につきましては、ほっこり～のさんに委託して実施をさせていただきましたので、後ほど、内海さんからご説明いただければと思っております。

こちらの子育てをしながら働く女性世帯の輝き応援事業につきましても、3ページ中段にお示ししておりますように、KPIを総合戦略から抜粋しまして設定したというものでございます。

以上で、私からの説明は、終わりでございます。

○会長

ありがとうございました。

それでは、事務局よりありましたように、マッチングシステムの構築及び子連れワーキングスペースの開設について、内海委員からご説明をいただきたいと思っております。

内海委員、お願いいたします。

○委員

この前の3月に報告書のほうを提出させていただきました。十条で子連れOKサロンと

いうものを6年ほどやっております、その中から見えてくるものをお伝えしたいと思いましたが。

一番最初のマッチングシステムの構築ということなんですけれども、このA4の横長のものですね。こちらのほうをご覧ください。報告書のほうは、もっとボリュームのあるものではあったんですけれども、まず、ニーズ調査の実施ということを行いました。北区内で子育て中の主婦100名のアンケートを実施いたしました。こちらは、ウェブですとか、当方に登録されているメーリングリスト、また、実際、サロンのほうに来てママさん方との対面で実施のほうをしていきました。生粋の北区民ということだったので、100名選出させていただきました、その中で、見えてきたことを取りまとめさせていただきました。

それで、2枚目のほうにちょっと飛ぶのですけれども、こちらの円グラフと棒グラフが出ている用紙のほうをご覧くださいまして、サロンをやっている中でいつも感じていたのが、親戚や親御さんは、近いんですかなんて質問すると、いや、全然いないんですよ、地方から出てきてというお声が本当に多くて、孤立の子育てをしている方が多いんだなということは何となく肌感覚で感じていたんですけれども、今回、このアンケートを実施いたしまして、ニーズ調査、幾つかの項目の中の一つなんですけれども、夫や妻の実家から育児サポートは、受けられますかということで、はいが54.55%、いいえが45.45%と、ここだけを見ると、半分ぐらいは、受けられているのかなという感じがするんですけれども、実際、ご実家は、それぞれどれぐらいの距離なんですかとというと、3時間以上かかるということで、このスプーンの冷めない距離じゃないのですけれども、ぱっと手助けをしてくれるという方が、本当に少ないのだなということが見えてきました。半数以上の回答者が、実家からサポートが受けられると回答したものの、3時間以上かかるという回答が、3割を超える結果になりました。

それで、30分以内、本当に困ったときに助けてもらえるような方というのは、2割以下と、決して多くないことが見えてきました。

それで、本当に地方から出てきて頼る人がいないという方が多いということが見えてきましたので、実家、もしくは親戚のような役割をする施設や仕組み、児童館とは違ったニーズがあることが裏づけられると感じました。

実際、今、当方のサロンに来ていらっしゃる方でも、地方から出てきて、その方自身、精神安定剤を飲まれていて、育児をするのに困難を抱えているという方がいらっしゃるって、もうご飯もつくれないで、広島かなんかがご実家ですけれども、冷凍したものをクール便で親御さんがつくって、それを自宅に届けてもらって、それを解凍して食べているとか、そういうような本当に支援が必要で、その方は、もちろん行政の方も把握しているみたいで、そういうちゃんとした相談所も行っているんですけれども、それは、月に1回とか、定期的なものであって、じゃあ、日常、毎日をどうしているのかといったときに、私どものほうへ朝来て、夕方来て、1日2回いらっしゃるんです。毎日いらっしゃるんですね。そういう本当に親戚のおばさんちと違っていいよとお伝えしているんですけれども、その方の場合には極端かもしれないんですけれども、そういう方が多いなというのを、本当にこのデータからも見えてまいりました。

それで、隣に行きまして、どういったサポートを皆さん、利用したことがあるのか、利

用したことがないのか。また、利用してみたいのかというのを見ていった場合に、ファミリーサポートのほうは、割と率は高いんですけども、思ったよりも利用したことがないという方が多いなというのが見えました。

それで、お話を伺ったところ、やはり最初の登録の段階で、1カ月待ちだったり、2カ月待ちだったりとか、そういうようなお声もいただきました。

あと、産前産後ヘルパーのほうも、利用したことがあるという方が、まだまだ1割にも満たないような感じであったり、産後ケア、産後デイケアのほうも、1割ほどということで、もっともっと知ってから行きたかったなというようなお声もありましたので、もっと周知していく必要があるなと感じました。

そんな現状を踏まえまして、いろいろ調査のほうをさせていただいたんですけども、もとのほうに戻りまして、ハローワーク及び女性活躍を支援するNPOとの意見交換会なども開催いたしました。

区内で活動している子連れで出勤できるカフェを運営している「いろむすび」さんですとか、「ほっと縁市」、子連れでイベントを開催している「ほっと村」さんですとか、また、キャリアカウンセラーの方や、日々、ばりばり働いているお母様方にも来ていただいて、いろいろなことを話し合いました。

その中で、先進的なワーク・ライフ・バランスに取り組んでいる企業さん、2社、北区のほうから来ていただいたのですけれども、1社は、図書館の業務委託を請け負っているという会社さんなのですけれども、女性の社員さんがすごく多いと。

それで、図書館は、土日休みではないので、やはり預け先にとっても苦勞していて、この業者さんがおっしゃっていたのは、ぜひとも日曜日の保育園を充実させてほしい。そうでないと本当に人が回らないというようなことを切々と訴えていらっしやいました。

また、すごくいいなと思ったのが、そのとある女性社員の方が、子育てをやめなくちゃいけない、大変だというときに、全社員と面談をされて、子育てで何々さんが悩んでいる。とてもそれは、人事ではなくて、介護とかに置きかえれば、自分事なんだよというのをトップが、一人一人とかなり密に面談をされたそうなのです。

それで、その女性の方が休みやすいような状況、その人が休んだ分のお手当を頑張ってくれた若手の男性社員たちに、お給料として還元したりとか、女性が休みやすい、そしてまた、ちゃんと正規に戻ったときには、そのつけていたものをこっちへ戻すなど、そういうのを社労士さんといろいろ打ち合わせをされて、社内規定を変えて挑んでいらっしやるというところが1社でした。

もう1社のところが、税理士事務所は、割と大き目のところだったのでですけども、一人オペレーター役の人がいて、この仕事は、誰々さんがここまでやった。この仕事は、これまでやった。じゃあ、ここまでこの人は帰っちゃったから、ここは、この人をよろしくお願いねというような、この全体像を把握する一歩引いた人がいて、その人が統括・コントロールしていることによって、時短がうまく回って、効率的に回って無駄がないというような、そういう例を挙げていただきました。

そんな働き方、雇用の仕方、回し方があるのだなというのをみんなで実感して、そういういろんな企業さんのトライアルしている姿勢を知られて、私たちもとても勇気をもらえましたし、もっともっとその働き方の見本市や雇い方の見本市みたいなのを世の中に公表

して行ってほしいし、そういうような姿勢の経営者の方々がふえたらいいなというのを実感いたしました。

あと、有料職業紹介所のほうを株式会社ほっこり〜のプラスのほうで、5月に認可がおりまして取得いたしました。

それで、この有料職業紹介所をとるに当たって、私もいろんな責任者講習とかもろもろ受けたんですけども、言われてびっくりしたのが、求職者、仕事を探している方のプライベートを余り聞かないようにと言われたんですよ。余り聞いてしまうと、この人は、子育てであれだから、介護があるからと、何か先入観があって、うまく仕事の紹介ができないかもしれないから、求職者の人がべらべらしゃべり始めたら、それを静止しなくてもいいけれども、なるべく聞かないようにしてくださいというのを、全体の交付式のところで言われて、そうなんだと思いました。

片や、私たちが、就労支援をしたいと思っている子育て世代の人たちは、旦那さんの協力があるのかとか、ご実家が近いのかとか、お子さんは病弱なのかとか、いろいろなことを聞かないと、本当にそのママさんに合ったお仕事を紹介できないなというのを実感したので、世の中の流れと、私たちが目指しているものは、もしかしたら、本当に質が違うのかもしれないけれども、本当にリアルに手の届くものをつくるには、そのようなきめ細やかな面談だったり、聞かざるを得ないというのが、子育て世代の場合の特質かなと思いました。

今、登録者数のほうもふえてきております。が、なかなか片手間ではできないといいましょうか、もうちょっと本腰を入れてやらないとうまく軌道に乗らないかなと思っているところです。

それで、黒丸の4番目になるんですけども、子連れコワーキングスペースの開設をほっこり〜の志茂店のほうでいたしました。こちらのほうで、1棟貸しのところを借りました。1階でママたちが、コワーキング、勉強とか、資格のお仕事とかをされているときに、2階でお子様を見ているというような、そのような場所ですけども、名だたるいろんなコワーキングスペース、託児付のところを見てきてうちに決めてくれたという方がいらっしやいました。その方が、この日経デジタルのほうで取材も受けたママさんなのですけども、フリーランスで働かれています、やっぱり自営、フリーランスという、得点が低くなってしまって、保育園に入れなかったそうなのです。

でも、もうライターさんで、パソコンを開けると、子どもがぎゃーっと泣くようになってきて、一つも仕事ができないということで困り果ててうちのほうに来たという次第なのですけれども、完全に預けるのではなくて、同じ建物の中にいることによって、子どもが泣いている声が聞こえたり、何か心配が感じられるのがとてもよかった、選ぶ決め手になったというようなことをおっしゃっていました。

それで、保育に当たっているのは、地域の潜在保育士のママたちです。平日の2時間、3時間なら働けるという方々を保育士として置いて、同じ建物内なので、授乳、赤ちゃんがわーっと泣いたときに、ママさんのところへ連れて行って、授乳をしてもらったり、その授乳のペースをこちらのほうでお教えしたりできたのが、子育て中の主婦である私たちが運営しているからこそなのかなと。これは、きっと男性とかだったら、また、ちょっと違うのかなというところを感じたところでした。

それで、世の中のようにパソコンとか、Wi-Fiありますよとか、ドリンク飲み放題なんかにもしたんですけれども、そういうところには、ママたちは、食いついてきませんでした。とにかく託児機能があって、集中して2時間、がーってやっているんですね。その間、飲み物とかは、自分が持ってきたペットボトルぐらいで、飲み放題はやるというような感じではなくて、世の中のニーズとやっぱりママたちならではの託児付コワーキングスペースのニーズは、あるのかなと感じました。

それで、うれしかったのが、一人専業主婦のママですけれども、利用していただきっていた方が、美術、絵を描くのをなりわいとしていたママなんですけど、年子の二人が生まれて、全然その作業ができなくなりました。もう自己表現をするのは、諦めていたのですが、その託児付コワーキングスペースを利用していただきっている間に、個展に出すための絵を描き進めていただき、それが、この前受賞したということで、お喜びの声をいただきました。働く・働かないだけじゃなくて、人間らしく、子育てしても自分らしさを忘れないためのものでもあるなというのを実感した次第でございます。

すみません、長くなって恐縮なのですけれども、本当に3日ぐらい欲しいくらい。何かボリューム満点で、本当にお伝えしたいことがたくさんあるんですけれども、あと、十条店のほうは、西が丘や十条台の方のご利用が多いんですけれども、志茂店のほうは、南北線の方がやはり多くて、西ヶ原ですとか、駒込、王子、神谷などの利用者が非常に多いことが、やってみてとても気づいたことです。

また、求めるものも若干違うなというのを感じており、よく北区の分けるところでは、赤羽地区とか、王子地区とか、何とか地区と四つに分かれていますけれども、その分け方じゃなくて、特に子連れの場合は、交通弱者といいたまいますか、移動の範囲が限られているので、そういう視点でのサポートというのもすごく必要なんじゃないかなと感じたのと、産後ケアから社会につながるところまでのノンストップ支援の施設が、もっともっと北区内にふえていったらいいな、社会のインフラになったらいいなというのを感じたところです。

それで、多分来週ぐらいに東京新聞さんのほうで、その有料職業紹介所をとったというのが記事で出ると思います。注目というか、きっと世の中のニーズの本当に一つだろうなと思うので、これからも精進して運営していきたいと思っております。

すみません。雑駁でございますが、ありがとうございました。

○会長

内海委員、どうもありがとうございました。子連れコワーキングスペースというのは、非常におもしろい話で、もうちょっと聞きたいぐらいだった。すみません、ちょっと時間もあれなので。

それでは、引き続き、事務局より資料5の説明をお願いできればと思います。

○区

では、資料の5番をご覧ください。概要版をご覧ください。5-1でございます。

これは、まち・ひと・しごと創生基本方針2017ということで、29年6月9日の

国で決めたものということで、まとめたものというものでございます。

1枚おめくりいただきまして、1ページを見ていただきますと、平成29年度上段のほうにあります、29年度は、創生総合戦略の中間年であり、既存の取組を加速化するための新たな施策により、地方創生の新展開を図るというコンセプトになってございます。

それで、2ページのほうを見ていただきますと、主なポイントということで、大きく分けて四つに分かれておりますが、その中で、ちょっと気になるといいますか、我々が注目をしていることといいますか、今回、新たに加わったと言っているかと思うのですが、東京一極集中の是正というのが二つ目の塊としてあります。

その一番上のところに地方創生に資する大学改革というものがございまして。これは、報道等でも結構話題になっているので、聞き及びの方もいらっしゃるかと思いますけれども、18歳人口が大幅に減少する中で、学生の過度の東京への集中というのは、地方の大学の経営悪化ですとか、東京圏周辺地域からの大学撤退等が懸念されるということで、東京23区の大学の定員増というものを原則として認めないというような考え方のことでございます。

これは、一応年内に成案を目指すというようなことで国は言っておりますので、今後も動向を注視していきたいなと思っておりますのでございます。

もう1点は、三つ目のところで、東京圏における医療・介護問題・少子化問題への対応ということで挙げられておりますけれども、こちらにつきましては、まだ、具体的な中身というのが見えないような状況でございますので、こちらに関しましても、どんな形で国が進めていこうとしているのかということについては、今後も十分注視していきたいなように思っているところでございます。

こちらにつきましては、以上です。

○会長

ありがとうございました。個人的には、大学改革は、とんでもない大学改革だと思っておるのですが、ちょっとそれは置きまして。

すみません、ここまでのところは、あと、皆様からご意見は、この後、また、資料5の総合戦略における事業化に向けた検討・質問についてということの後に、ご意見をいただきたいと思っておりますが、これまでの件についてご説明の中で、ご質問、わからないところ等々ございましたら、まずは、ご質問だけいただければと思うのですが、いかがでしょうか。

じゃあ、池本委員、お願いします。

○委員

資料3でございます。北区総合戦略のKPIのところなのですが、表の見方をちょっともう一度確認をさせていただけたらと思います。

例えばですが、この資料3の1ページの施策の方向(1)の中の一番上、産前産後セルフケア講座参加者数というのは、現状(A)が307組、実績(B)が396組で、その2年度の累計として703組というふうに書かれています。

じゃあ、ちょっと下に行きまして、例えば、延長保育実施園数。これは、施策の方向

(2)の上から四つ目です。これは、平成27年度末は46園。それで、実績(B)は3園で、合計が49園となっていますが、これは、本当に延長保育実施園数は、大幅減少して、平成28年は3園に減ってしまったのかということが疑問です。

同じく下のワーク・ライフ・バランス推進企業認定数も、14社が実績が1社というふうに減っていますが、同じくこれは、減少したというふうに捉えていいのでしょうかというのが質問でございます。

○区

そうですね。まず、産前産後セルフケアは、27年度末までで307組の参加があって、それで、28年度だけの実績で396組ありましたということで、28年度末、A足すBということで703組ありましたということです。

延長保育園の実施園数は、27年度末までで既に46園が実施していました。

それで、28年度のときに新たに3園実施したということで、合計28年度末で49園が実施をしているというような見方になります。

すみません、ちょっとわかりづらいかもしれません。

○委員

それであれば、やはりちょっと書き方を変えたほうがいいかなと思う。多分初めて見た人は、よくわからないし、と私は感じました。プラス3園、プラス1社とかですね、いろいろやり方はあると思うんです。

○区

ありがとうございます。

○会長

ちょっと現状値と実績がわかりづらいかもしれません。累積だということをはっきりと書かれたほうがいいかもしれません。

こちらに書いてあるのですが、こっちが累積なのですよね。

○区

実績、28年度の現状値のところ、累計となっています。

○会長

過去の累積に、要するに、ストックにフローを足してストックになるのですよね。

○区

はい。そこは、工夫をさせていただきます。ありがとうございます。

○会長

ほかに何かご質問。

はい、お願いします。

○委員

すみません。資料2の10ページの外国人人口の推移のところなんですけれども、もし、できれば、例えば、方面別に何割ぐらいですとか、もしくは、逆に、ベストファイブぐらい、どの国の方が多いとかがわかると、ただ、外国の方がふえていっても、どのあたりの方がふえているのかがわかれば、また、いろいろ対策とか、つながるのかなと思いました。これは、要望です。

以上です。

○会長

ほかによろしいでしょうか。

○委員

すみません、ありがとうございます。資料2ですけれども、このまち・ひと・しごとの関連で、いわゆる少子高齢化問題の対応という中で、この資料2の中で、例えば、高齢化率とか、高齢者数のデータというのはなかったんですけれども、何かそのあたりというのは、例えば直近でよく23区で一番高齢化率が進んでいるとか、何かそういうデータもあると、少し高齢化に関する部分のバックデータとして参考になるかなとちょっと思ったんですけれども。

ですから、今後、何かそんな資料もあったほうがいいかなというふうに感じました。

○区

はい、ありがとうございます。

○委員

資料2の図表15、他区市間の通勤による交流人口という、2010年と2015年と二つあるんですけれども、ぱっとこれを見ると、自区に従業というのが、2010年の4万4,621人から3万9,439人と5,000人ぐらい減っているということで、このところに僕は問題意識があるんですけども、それが、その他市区から来ている人が多くなったという話なのか、要するに、北区のいわゆる就業すべき事業所等が少なくなったからなのかとかというのが、この辺の合計が出ていないので、ちょっと見にくいんですね。想像もつかないというか、この北区への通勤者の居住地のこの合計の比較が2010年と2015年が出るとそういうのが見えるとか、ちょっとその辺、もうちょっと何に対して問題意識を持つかということの中で整理をしていただきたいなと思いました。

○区

はい、ありがとうございます。そこは、整理をさせていただきたいと思います。

○会長

業などの実施を通じ、住民が地域活動へ積極的に参加できるような仕組みをつくることを目的とした事業というものでございます。

こちら、資料6の別紙の3ページのところに関連する資料をおつけしております。

次の黒丸ですけれども、若者による区政・地域活動への参画機会の拡充でございます。こちらにつきましては、区として今現在、関連する施策として実現しているものというのが、お示しできないような状況でございますので、また、いろいろご意見をいただけると幸いに思います。

次に、2ページにお進みください。2ページの上のところ、大学と連携した地域課題のしくみづくりというものでございます。

こちらは、区の施策ということでご紹介をしておりますけれども、北区は、平成22年度の東京家政大学との協定締結を皮切りにいたしまして、今年7月に、お茶の水女子大学とも包括協定を締結し、6校の大学と包括協定を締結しております。

さらに、ことしの4月に東洋大学が、赤羽台に情報連携学部といったものを開設しましたけれども、これを機に、さらなる連携も深めていこうということで、覚書というものも3月に締結をしているというようなことがございます。

こういった協定ですとか、覚書などを生かしまして、これからその地域課題の解決に向けまして、さまざまな連携事業をさらに充実させていきたいというように考えているところが1点ございます。

次に、基本目標のⅢ番でございます。これに関しましては、大学と連携したベンチャー支援というものでございますけれども、区の施策といたしましては、産学連携研究開発支援事業といったものを実施しておりますということで、こちら別紙の6ページ、7ページで関連する資料とございますか、この開発支援事業についてのご説明の資料をつけております。

次に、基本目標Ⅳ番のところ、検討を要するものとしたしましては、国家戦略特区を活用したまちづくりということでございます。

こちらは、実際、まだ、国家戦略特区を活用しているというような状況には至っておりませんが、関連する区の施策といたしまして、王子周辺のまちづくりのランドデザインの策定といったものがございます。

それで、今、間もなくでき上がるような状況でございますけれども、ランドデザインが策定した後に、（仮称）王子駅前前の整備計画といったものも、さらにつくっていく予定でございます。そうした状況も見ながら、国家戦略特区の活用も有効ということであれば、どんどん活用していこうというように思っておりますが、今は、状況を見ている段階というところでございます。

次に、3ページをご覧ください。こちらは、基本目標のⅤ番に関するものでございまして、他自治体を実施する地方創生の取り組みへの協力ということでございます。

こちらは、関連する区の施策といたしましてご紹介をしておりますが、先ほどもお話をさせていただきましたが、加速化交付金を活用した自治体間連携の事業でありますとか、特別区、23区全体で全国連携プロジェクトというものにも取り組んでおりますので、ご紹介をさせていただいております。

以上が、事業化に向けて検討を要する事項と、それに対する区の関連施策ということで

ご紹介をさせていただきました。

○会長

ありがとうございました。それでは、事業化に向けて検討を要するものについてのご意見と事務局より説明がありました内容につきまして、皆様方からご意見をいただきたいというふうに思っております。

まずは、池本委員から時計回りの順番にお一人5分程度でご意見をいただければと思います。

では、池本委員、よろしく願いいたします。

○委員

はい。先ほど、ご説明いただいた中で、住みたいまちランキングのランキングが下がってしまったじゃないか。池本委員がいるのにどうしてだという話がありまして、私がいたから上がるとか、下がるとかというものではございませんが、ちょっとそれについて今、少し資料を見てみましたので、補足というか、ちょっとここにいらっしゃる皆さんへの共有も含めてお伝えしたいと思います。

ちなみに、住みたいまちランキング北区の順位というのは、ここ3年間の推移で見ますと、2015年が43位、そして、その次が、31位に上がったんですが、今回、38位ということになっています。

転出入を見ると、仮にライバルは板橋区だというふうに置くとすると、板橋区は、どういう推移をしていたかという、29位、38位、37位と。去年は、北区が上回ったんですが、ことしは、1位だけ板橋区のほうが上回るというふうな形になりました。

ただ、一つ、面白いお話としてありますのが、住みたいまちランキングの中のちょっと特別編ということで、これは、非公開なんですけれども、幾つかの観点で行政市区のランキングを別にとっておりまして、保育サービスが先進的だと思う行政市区というランキングを別でっております。

このランキング、1位は、ちなみに江戸川区でございまして、2位が千代田区、世田谷区、港区、品川区というふうが続いていくんですが、北区のことしの順位は、12位でございまして。

それで、ちなみに、この3カ年の順位で言うと、18位、20位、12位ということでございまして、一つ、「子育てするなら北区が一番」ということを大きく目指している観点におきまして、この保育サービスというところが、あくまでもこれは、実質的に皆さんが感じられているというイメージということのランキングにはなりますが、少し上昇している。

ちなみに、すぐその上に、千葉県流山市というところがございまして、流山市は、同率の順位ということ。横浜市中区と同率で10位という形になっておりますが、そのすぐ下ぐらいに今、つけているというのが、状況でございましてということ。

それから、事業化に向けて検討を要するものということについての意見ということですが、私としては、やはり基本目標をわざわざIに掲げている「子育てするなら北区が一番」ということについて、より一層施策を強めていただけたらいいんじゃないかというふ

うに思っております。

といいますのが、あくまでもこれは、結果指標なので、すぐに転じるわけじゃないですが、お配りいただいた資料2の中の合計特殊出生率の推移というところの表を見て、北区の数値も上昇しておるわけですが、実は、東京都の平均値や特別区の平均値と比べたときに、特出で伸び率が高いという形には現状になっておらず、まち・ひと・しごとの戦略の1番に、「子育てするなら北区が一番」と言っているのであれば、やはり長期的には、この出生率の上昇というものが、ほかの周辺市区と比べても、上昇率が高いという結果が出るのが、とてもやはり結果指標としては、わかりやすいのかなというふうに思っております。

ということ言うと、まだ、現状、これは、安心して産める環境になって、出生率が上がっていくということなので、時間はかかるんだと思うんですけども、中長期的な目標として、やっぱりここは上がっていくというために、一体何を実施していくと上がっていくのかということは、今後も研究・検証していく必要があるのかなというふうに思っております。一般的には、多分保育園の入りやすさというところの指標はあるかと思えます。

ちなみに、保育園の入りやすさというのが、北区が、ほかの市区と比べて入りやすいと思われているかどうかという数字もSUUMOのほうでとれておりまして、住みたいまちランキングの中で、なぜその行政市区に住みたいと思ったのかという理由を聞いております。

この理由を聞いた中で、北区が、強いものと弱いものというのが明らかにあるんですけども、その強いものの中の一つに、育児・教育というパラメータのところは、ほかの区と比べて高く出ているというところがあります。

ちょっと参考までにということですが、住みたいまちランキングの1位の行政市区は、港区です。先ほど、先進的な取り組みということで、たしか子ども3人目の保育料無料とかと港区はやっているんですけど、それはあるんですけど、総合的な育児・教育という観点における港区を選んだという人たちというのは、指数で言うと2.8なんです。

ところが、北区は、6.0あるんですね。非常に高いと。

ただ、江戸川区は、9.7ということで、さらに高くなっております。

ちなみに、板橋区は、1.6です。

ですから、板橋区と比べたときには、とても北区のほうがいいというふうな評価を得ているということと、それと、保育園・幼稚園に入りやすいともっと細かく聞いている数字があるんですが、これも、北区は、5.4という数字で、港区とか、世田谷区は、2.6とか、1.4とかとすごく低いので、それと比べても比較的高いという数字があつて、もう一つ高いのが、児童館とか、子どものための施設が充実しているという数字が12.5と、これはすごく高くて、ちなみに、港区は0.7、世田谷区は3.4、目黒区は3.7とすごく低いので、こういったところが強みという形で、指標としては出ています。

言いたいことは、ここの「子育てするなら北区が一番」をより進化させていき、最終的な出生率が上昇しているために、一体どのパラメータをさらに上昇させていくと、皆さんが安心してお子さんをたくさん産もうという気持ちになるのかということそのものも、研究実証していくぐらい、また、内海委員がやられているようなその働くということと、子

育てということの両立のところを強めていくと産む人がふえていくのか、あるいは1家族当たりの産む人数がふえていくのかとか、そういったことを最終的には、数字で見えていくんでしょうけど、極端な話、園の位置を調べていって、それのおかげで二人目を産むことにしたわとか、そういったことを積み上げていって、一体どういうものが出てくるのかということが見えてくるぐらい、せっかくですから、事業を中心にシフトして、進めていただけたらというふうに思いますし、例えば、他自治体との発展できる取り組みという中でも、安心して子育てをするってどういうことなのかということをはかの自治体の皆さんの職員さんとか、先進的な取り組みをしている方々との情報交換をするということも、立派なその自治体間の連携だと思えますし、あるいはそのお父さん、お母さん、子どもたちがそのまちに遊びに行っ、生き生きとリフレッシュしてくるということの支援みたいなものも、もしかしたら、北区ならではという形で、そういったところに支援していくというのも、2拠点の生活とかも今、ありますけども、極端な2拠点は難しいと思うんですけど、夏休みの間だけ、少し長目にステイができるような、しかも、小さなお子さんを連れていって、ゆっくりくつろげるようなちゃんとした施設が県外の施設の中で連携でなるとか、そういったものもあると、すごく守備一貫して施策ができていいるなということが見えてくると思いますので、ぜひそういったものも推進していただけたらというふうに思います。

ということで、この基本目標Ⅰの産後シェアハウスの調査研究、この参考資料を見せていただきましたけど、とてもいい取り組みだと思えますので、これもどんどん進めていただけたらいいんじゃないかなというふうに思っております。

以上でございます。

○委員

ちょっといいですか。質問があります。

○会長

どうぞ。

○委員

今、北区のパラメータとしての子育てを強めていくというのは、そのものの話は、全く異論はないんですけども、事実として、例えば、23区内で北区よりもずっとその出生率の高い区と、その今おっしゃったパラメータの相関というのは、やっぱりあるものなんですか。

○委員

それ、僕も今調べようと思ったら、この短時間じゃ、すぐ見られませんでした。

○委員

だから、そのところのあれは、また、教えていただけると、本当にそこなのかというポイントが出てきますよね。

○委員

そうですね、はい。

住みたいランキングとの相関は、我々データでお伝えすることができますが、多分北区自身でできることは、周辺市区で、自分たちよりも出生率が高い区というのが、もう少し落ちたKPI指標で見ていったときに、どの指標が、ほかの区が高くて、ほかの北区がすぐれているのかということの差を見ていくのもいいですね。出生率が高いところは、一体何がよくて高くなっているのかということも研究できると思いますので、やっぱり他市比較みたいなものは、ぜひ一つは、まず、できることとしてあるかなと思います。

○委員

池本さんがおっしゃるように、そこを目標にということは、皆さん、これから意見もあると思いますけど、するんだとすれば、絶対今、おっしゃったことがなされないと、多分的外れのところに力を入れちゃうみたいな話になっちゃうと思うので、ちょっと。

ありがとうございました。

○会長

ありがとうございました。

じゃあ、続きまして、大塚委員、お願いいたします。

○委員

今、出生率高いっていう話でふと思ったんですけども、日本全国で見ると、出生率がずっと高いところをキープしているのは、沖縄県なんですね。沖縄県は、やっぱり仕事なくて、失業率もとても高い。それから、物価が安くて米軍基地があつてと、かなり働いて子どもを育てるには、困難なことも多いし、離婚率も実はとても高いんですが、地域の助け合いというのがとても発達している場所で、なおかつ保育園がとても多いので、保育を預けやすいという環境があるので、子どもを産んだ後も安心して育てられるのかなと、今のお話を聞いていて思いました。

それで、保育のことなんですけれども、子ども・子育て会議でも出ているんですが、このところ、待機児童が減ったおかげで、転入者がとてもふえているんですね。近隣区から北区だと保育園に預けられるということで、入りやすいということで、転入者がふえているんですけれども、ただ、その保育枠をふやすだけでよいのかというところが、やはり会議の中でも課題として出てきていまして、このところ、地方での保育施設での事故ですとか、そういった保育の質というところが、結構気になっている保護者の方も多いと思うんですね。

それで、数値にするのは、とても難しいかとは思いますが、例えば、給食の内容ですとか、保育士とか、とにかく保育の質を上げること。これが、今後、すごく大事なかなと思います。

それで、北区独自の「子育てするなら北区が一番」というのをこれから打っていくためには、やはりただ入れるというだけではなくて、北区独自の、例えば、ことしから始まっ

た幼保一体施設の区立こども園ですとか、北区ならではのよいところをもっとアピールしていくことが大事かなと思います。

それで、やはり子育てをしていく中の弱者は、貧困家庭とか、シングルマザーとか、あと、外国人の方とか、そういった方、あと、周りに助けてくれる人がいないですとか、私も3人子どもがいるのですけれども、実家は、板橋区と北区で近いのですが、両親ともに病気で、3人ともどこの手も借りられずに、本当に今振り返ると地獄のような子育て期だったのですけれども、やっぱりそういったちょっとしたサポート、近所のおばちゃん的なサポートが、まちごとにきめ細やかにあるといいなと思ひまして、例えば、基本目標Ⅱの多世代交流型住宅の整備というところですが、空き店舗、空き家を活用して、住宅だけではなくて、居場所づくりですとか、あと、例えば、23区でどこかの区だったと思うのですが、元保育士さんがNPOを立ち上げて、シングルマザーのシェアハウスをつくったというのがニュースに出ていたのですね。

それで、北区らしさを私は、下町かなというふうには個人的には思うのですけれども、そういった民間と協力して、何かきめ細やかな、北区だからこれができるんだよということができていければなと思います。

以上です。

○会長

ありがとうございました。

続きまして、永沢委員、お願いいたします。

○委員

そうしましたら、資料3にちょっと関連してお話をさせていただければと思うのですが、このKPIの一つ立て方なんですけれども、これが、いわゆる政策的にいろいろな取り組みをした結果、例えば、そのKPIが、いわゆる達成されているのか。

それとも、たまたまと言っちゃうとあれなんですけど、達成されたかというところで行くと、例えばなんですけど、2ページ目のところでいくと、女性、若者、高齢者の活躍を応援すると。いわゆる就業率ですけれども、これは、一定程度達成はされているんですか。例えば、これは、何かの政策を打った結果なのか、自然とそうなったのか。いわゆるこういう政策を立てるときに、やっぱりこの政策目標に向かうために、予算であるとか、政策を講じて行くというのが本来だと思うんですけれども、先ほど、例えば、資料4のところ、ほっこり～のさんが一つ、女性の就労ということでかかわっていらっしやいましたけど、もう一つ、いわゆる自治体間交流というところで、酒田とか、中之条、甘楽との提携というのがありましたけれども、これなんかはPR動画をつくったりですとか、研究会を開催というところがあるんですけれども、実際、じゃあ、そこが一つのゴールなのかというと、多分それは過程であって、連携した結果、例えばですけれども、東京がいわゆる地方都市を活性化する一つの販路開拓であるとか、そういう成果が上がったら、多分この過程のところはゴールではなくて、何かのKPIの目標があって、それを実現するための政策という位置づけで考えていくと、いろんなKPIの立て方でいくと、全てのものは、どちらかという、過程でいわゆる目標が置かれちゃっているところ。

つまり、これが、ゴールではなくて、これが達成されたその先が、多分一つ、「まち・ひと・しごと」としてゴールに値するようなものなんだろうなというところが、結構、多いなという印象がありました。

例えば、連携しましたというのがゴールになっている数字が結構多いのですが、連携がゴールではなくて、連携した先が、多分成果なんだろうなというところがあって、つまりそのK P Iの立て方のところが1点と、もう一つが、K P Iを立てたのであれば、それに向けた政策が多分ない限り、そのたまたま達成されたかどうかということになってしまうので、例えば、その資料6のところ、今後、基本目標ということで、I、II、III、IV、Vということで立てられていますけれども、じゃあ、これが資料3のK P Iと連動しているかという、必ずしも連動していない印象もあるんです。

例えば、資料3のところに書いていない項目としては、例えば、創業へのチャレンジで、いわゆる大学と連携したベンチャー支援。例えば、この部分が、特に、その資料3のところ、具体的に例えば、どういう結果を導くかというところ、これは、大学等の共同開発研究助成件数とか、幾つかあるんですけども、いわゆるこれに値するのかなということを含めて、このいわゆる資料6のところの目標の資料3のK P Iが、それぞれどこに該当・充当するのかなということも含めて、何か少しいわゆる整理がされるといいのかなと。

何を言いたいかというと、K P Iの目標が政策によってやっぱり達成されるというような方針が健全な形になるので、K P Iを立てるということは、それに準じた政策目標と、それから、政策実施がやっぱりあるべきかなということがあって、それもまた、途中の件数じゃなくて、件数の先にある成果目標を多分立てるべきではないかというところが、全体でちょっと印象として感じたところでもございます。

それから、あと少し創業に関して、今、産業振興課で活性化ビジョンの検討委員会の委員と、あと部会で創業部会の部会長もさせていただいているので、ちょっとその関係でお話をさせていただきますと、先ほど、資料6のところの基本目標の3番目ですが、創業のチャレンジによって、地域産業の活性化を図るところですが、今、ビジョンの委員会の中で、どうもいろいろなデータを見ると、北区自体は、創業率は、どちらかというところから数えたほうが早いぐらい、創業率とか、創業者数は多くない実態には出ているのです。

これは、それこそ瀧信さんとか、城北さんとか、公庫さんとか、いろんな金融機関さんを含めて、いろいろなデータを集約すると高くはないと。

ただ、その中で、その検討委員会でも、部会でも共通して出ているのが、どうも北区の創業は、ベンチャー系がほとんどいないと。それこそほっこり～のさんとか、いろむすびさんのように、いわゆる生活関連系の事業が非常に多くて、まさに子育て支援とか、高齢者支援とか、いわゆる生活関連で小規模事業の創業が非常に多いというデータがかなり上がってきていて、そこを今、産業振興課としても、少し強化していったほうがいいんじゃないかと議論が出ています。

それで、その中で、今回のどちらかというところと大学と連携したベンチャー支援というのが、どちらかというところ、ちょっと僕からすると空中戦的な話になっていて、例えば、以前、遠藤先生でしたか。こういった大学との産学官連携を本格的にやろうとすると、数十億円と

かの規模の多分予算とか、かなり投じない限り、結果が出ないというお話もあつたりして、また、創業のチャレンジによって地域産業の活性化を図るというテーマの中で、大学と連携したベンチャー支援でITロボット、ヘルスケアというところが、ちょっと適当なのか、どうなのかというところに関して、もうちょっと何か現実的なところで、北区らしさを求めていったほうがいいかなというところを少し感じたところでございます。

以上です。

○会長

ありがとうございました。

続きまして、菅原委員、お願いいたします。

○委員

それでは、北区しんきん協議会会員の代表としてお話しさせていただきます。

北区しんきん協議会会員の各信用金庫においては、独自に地域経済に貢献する活動を実施しているわけでございます。特に、金融庁の金融行政方針においても重要性の評価、担保、保障に頼らない金融支援をうたっており、各金融機関は、金融仲介機能の発揮のため、努力しているわけでございます。

それでは、まず、当金庫における地域活性化の活動をちょっと紹介させていただきたいと思えます。

まずは、北区と足立区、瀧野川信用金庫を連携しました創業セミナーを実施しております。これは、29年5月1日に北区ニュースに掲載させていただきましたが、その趣旨といたしましては、産業競走力強化法に基づき策定した、創業支援事業計画である特定創業支援事業につけられたセミナーであります。

本セミナーについては、当金庫の港北支店で開催されましたが、ことしで6回目となりまして、6月1日から6月23日の4回にわたり開催されわけでございます。

主な内容としましては、第1回目が経営、第2回目が財務、第3回目が販路開拓、第4回目が人材育成といった内容であります。ことしは、約40名の方が、ご参加いただきました。

続きまして、北区起業家支援資金についてということで、これは、私どもと北区で連携した商品でございまして、昨年度に続きまして、取り扱いを実施しているわけでございます。融資限度額については、1,000万円ということで、利率は、1.8%以内ということでございますが、そのお客様負担の1.5%を北区さんのほうで負担していただきまして、残りは、当金庫が負担するということで、実質の利率というのは、0%。また、本資金については、保証協会を利用いたしますので、保証料の負担が当然あるわけですが、これを北区、そして、当金庫で補助し、実質保証料はゼロというような内容でございまして。

本申し込みの流れについては、北区ホームページなりの北区中小企業融資あっせんのご案内に一応掲載されております。

また、今、お話にありました産学連携についてはなんですが、私どもでは、地域貢献の取り組みの一環として、平成17年度より、中央工学校の地域密着方実践教育に賛同しま

して、連携し、協力しております。

地域密着型実践教育とは、新築の専用住宅や店舗併用住宅等を建築計画している施主に対して、同校の学生が、個々に設計・デザインして、プレゼンテーションと意見交換を行い、地域に貢献することを目的としています。

今年度は、当金庫の取引先である3世帯住宅を建築する計画のおかけについて、同校の生徒が建築プランを作成し、今月の5日ですか、中央工学校ステップホールにて、グループによるプレゼンテーションが実施されました。

また、27年12月より、東洋大学の工業技術研究所の技術相談の取り扱いの開始をいたしました。現在、工業技術研究所からは、セミナーの案内等が当金庫に発信された場合には、その内容について当金庫のメールマガジンに掲載し、一般のお客さんに案内しております。

また、起業家支援の施設として、私どもでインキュベーション施設がございます。この内容については、格安の家賃ということで起業家の方に利用していただければということで、一応つくったわけでございます。

以上でございます。

○会長

ありがとうございました。

続きまして、柴田委員、お願いいたします。

○委員

柴田です。すみません。いろいろあるんですけども、ちょっと事業化に向けて検討を要するものについてのみということでお話をしたいと思います。

まず、「子育てするなら北区が一番」を実感できるようにということで、すごくシェアハウス、多分、子育てのときだったかな、お話を産前産後のシェアハウスの話が出ていて、それのようやっと形になったものかななどと私は思っていたのですが、1個だけこれだけちょっと、先ほどお尋ねしそこなったのですが、なぜ、これ、北区なのに、産後ケアの箇所が、北区西が丘と葛飾区なのかというのを、いずれ多分北区であちこちになる、これは、多分ケースだからだとは思んですけども、例えば、私がここを頼みたいと思ったときに、当然のことながら、先ほど、内海さんの調査でもあったように、親、親戚がいないから、それを頼むということが多いと思うんですけども、そのときに、北区にもいないのに、さらに違う、全く誰もいないところに行くかという、ちょっとそこが、私は、不思議だなと思って、いろいろ事情があつてのことだと思うんですけども、これは、できればできるだけ早く北区内のほうでやったほうがいいんじゃないかなと思って、ちょっとそれだけすごく最初にこれを読んだときに気になりました。

本当に、私自身も親は、3時間以上離れた他県に住んでいるので、全くあてにできない状況で、もし、どっちかが倒れたら、本当に終わりな状態で、二人の子どもを育てていて、3人の子どもを育てて地獄だったという、さっきの話を聞いて、今、ドキドキしているんですが、ただ、そういったときに、本当にちょっと行ったときに、すぐ何かしら手を差し延べられるような優しいまちになっていると本当にいいなと思うので、ここは非常に力を

入れてやっていただければなと思います。

また、この調査研究がちゃんとついている事業であるならば、それはとてもほかの地区とか、ほかの参考にもなるでしょうから、ぜひきちんと進めていくとよいのではないかなというふうに思いました。

それで、もう二つ、あとは、URと一緒に連携を図って行って、自治会とかその参加加入率を深めましょうというお話があったかと思うのですが、K P Iの目標のほうで、最終目標が83団体、これは、資料3の2ページのところで、町会・自治会と見守り活動団体数というのが、83団体を目標としていて、多分、その足がかりの第1歩として、URと連携をされたというような気がするのですが、これは、一体具体的にどういうことをしていくのだろうというのが、実は、ちょっと気になっておまして、決してこれを否定するものではないのですが、私も、実は団地に住んでいるのでわかるのですが、団地の中に互助関係といいますか、をつくるのは非常に難しく、その単純にそのURならUR、その団地のところで何かをするというだけでは、ちょっともの足りないんじゃないかなというふうに危惧をしております。

これについてももう少し細やかに何か具体的な施策が上がってくれば、それを聞きたいなというふうに非常に思いました、これを読んだときに。決してこれが悪いとか、これが全然役に立たないとか、そういうことではないのですが、ただ、これだけでは絶対にうまくいかないだろうというのが現実的にあると思うので、ここはもう少しきちんと深く掘り下げるべき点ではないかなというふうに思います。

それで、最後なのですが、ほかの自治体さんとの交流ということで、今、友好都市とのPR動画を作成というのがありましたけれども、この動画も1回つくりました、あげましたではなくて、多分、アップデートしていかないといけないというふうに思うんですね。これは、いろんな形でのPRで、これは、区民とか、いろんな人にアピールをするためだと思うのですが、これも1回やりましたではだめだし、そのユーチューブなり、どこにあげて行って、そのビュー数もちゃんと見て行って、どうしなければいけないかというのをちゃんと研究というか、しながら、シティープロモーションをしていかないと、多分やりました、終わりましたになってしまいそうで、それがすごくもったいないなというふうに思いました。

それで、そこをもう少し力を入れていっていきいんじゃないかなというのが、私を感じたことです。

○会長

ありがとうございました。

先に、今、ご質問が二つほどあったと思うのですが、事務局のほうから。

○区

まず、ショートステイですね。産後ショートステイの件ですが、今回、西が丘の助産院さんと葛飾区のところとなっていますが、確かに本当に近いところというのが、実は、今も探していると思います。

現在このような状況になっているのは、まず、そもそも北区の中で、なかなかそういう助産施設みたいところが多くないという現状が、まず一つあります。

というのと、23区全部だったか、すみません、ちょっとそこは、十分把握をしていないのですが、幾つかのところ、こういった事業を区としてやっていきたいんだけど、ご協力をいただけますかということで調査をさせていただいております。

その結果として、今、こちらの二つのところから協力をいただけるということで、ことしの10月からスタートをするようになってございますので、これはその事業の状況を見ながら、やっぱり行きやすいところというのも考えていく必要があるだろうというふうには捉えています。

あとは、URさんとの協定と町会・自治会の見守り活動ですけども、これは少し別に考えていただいたほうがいいかなと思っておりまして今のところは、そうですね、リンクはしていません。

それで、町会・自治会さんの見守り活動というのは、もう既に、6年前ぐらいから始まっているんですけども、うちはやりますよというふうに手を挙げていただいた町会・自治会さんで、地域の中の見守りをやっていたとということですね。

それで、今回のURさんとの協定は、そのURさんの空き部屋といいますか、そういったところをうまく活用させていただいて、そこをいろんな地域活動の拠点として使わせてもらうといったところから始まっているというところがございます、今は主にその高齢者の方が活動する場として、月に何回かなんですけれども、あけていただいているというところがございます。ただ、これからいろんな形で発展していければいいかなと。本当に高齢の方だけではなくて、多世代交流につながるようなお子さんも含めた形での何か地域活動につながっていければいいかなというふうに思っているところです。

○会長

ありがとうございました。

それでは、ここで、本日欠席の篠崎委員よりご意見をいただいておりますので、事務局より続けて篠崎委員のご意見をご報告をお願いいたします。

○区

では、篠崎委員からのご意見を読ませていただきます。北区版総合戦略におかれましては、喫緊の課題の人口減少の歯どめをかけることが目的の一部であることを考慮いたしますと、着実に成果はあらわれているのではないかと思います。

生まれ育ち、住んでよかったと思えるふるさと北区を実現し、首都東京の自治体として、30万都市北区を未来につなぐための計画といたしましては、言葉を置きかえると、「北区にずっと住んでいたい」、「北区に住みたい」になるかと思いますが、人口の定着と転入に焦点を当てるとともに、再確認しながらご提案いただきました事業化に向けて検討を要するものの北区の施策等につきまして、ご検討いただければと思います。

私ども、ハローワーク王子といたしましては、現在、国のサービス行政機関といたしまして、1億総活躍社会の実現に向け、雇用の分野におきまして、女性、若者、高齢者を初め、就労並びに雇用を希望される全ての皆様を対象に、地域に密着したサービスの提供、

北区並びに関係機関の皆様との連携を一番に、皆様のニーズに応じられる、行きたくなるハローワークを目指します。お客様ファーストをスローガンに支援させていただいておりますので、引き続き、ご理解とご協力をお願いいたしますというものでした。

以上でございます。

○会長

ありがとうございました。

それでは、続きまして、内海委員、よろしくお願いいたします。

○委員

先ほど、柴田委員もおっしゃっていましたが、産後シェアハウスのことを分科会とかでお話ししていたのが、こういう形に上がってきて、本当にうれしく思っております。

それで、これも肌感覚であれなのですけれども、ママたちと日ごろサロンで話をしているのが、専門家がいて、そういう施設も大事かもしれないんですけれども、一人目のお子さんの場合は、ハイリスクであったりとか、よくわからない部分もあって、そういう専門家がいたほうが心強いというのものもあるかもしれないんですけれども、二人目以降のお子さんの場合は、上の子どもを幼稚園に送らなくちゃいけないとか、上の子の面倒も見てくれるようなサービスが欲しいですとか、あと、実際、その産後デイケアに行ったときに、ゆっくり休みたいって行ったんだけど、結局赤ちゃんの身長・体重を測ったり、相談みたいなのをしたり、しゃべっているうちに時間が過ぎてしまって、結局寝られずに帰ってきたみたいなお声も伺ったり、一人目の育児と二人目の育児って、この子育て中のママの心理的なものとか、また、実際的な負担というのが、ニーズが明らかに違うと感じております。

ので、こういった専門家の人がいる場所をふやしていくというのも一つなんですけれども、本当に先ほどから申しているような実家へ帰ってくる。私たちだって里帰りとかしたときも、自分の親が助産師家といたら、そんなことではなくて、子育て経験のある人が、できることをしてくれるというのでも、十分じゃないかというようなご意見もあるのをここで述べさせていただきたいと思います。

一つ出てきた案としましては、マンションの3LDKみたいなところを借りて、そこで3部屋に親子さんたちが住んで、LDKが出てきたときには、誰かがご飯をつくってくれたり、掃除してくれたり、洗濯してくれたり、また、上の子の送迎をしてくれたり、そういうようなので、パパたちもその部屋に泊まってもいいよだとか、もうちょっとファジーにといいますか、子育てママの視点とかニーズに即したものだしたら、そんなに物すごく難しい、専門家を集めるとか、いろいろ考えると難しくなっちゃうかもしれないんですけれども、そうじゃなくて、もうちょっと身近なところで解決策があるのじゃないかなと話をしている次第でございます。

あと、きょう、本当に多世代交流ということで、昼間、みずべの苑さんというデイケアサービスに、志茂でやっている志茂ジェネプロジェクトという多世代ジェネラティブの一環で行ってきたんですけれども、本当にふだんは、体操を全然やらないおじいちゃん・おばあちゃんが、1、2歳、3歳の親子連れさんで行ってきたんですけれども、ふだ

ん全然やらない人が張り切ってやっていたわとか、やはり交流することによって、老人の方も元気になるし、子育て世代のママもどうなんだろうなと思ったんですけども、すごく楽しかった、定期的にこういうのをやってほしいというようなお声もいただいたので、それが、住宅という形になるとどうなるのか、想像を私なんかはつきませんけれども、でも、すごく希望のあるいい施策だなと思いますので、ぜひ進めていっていただきたいなと感じました。

ありがとうございます。

○会長

ありがとうございました。

それでは、今井委員、お願いいたします。

○委員

僕のほうからは、基本目標ⅡとⅢについて感じたところについて、発表したいと思えます。

まず、1 ページ目の基本目標Ⅱの多世代が交流できる仕組みづくりというところで、僕も住宅型は、とてもいいとっていて、どういう形になるのかというのは期待はして、あとは、今ある資産をもっと活用というか、やっていることをもっとうまくできないかなというのは、ちょっと感じていて。例えば、これはもう直近の話なんですけど、7月23日、うちの近くで西ヶ原みんなの公園、東京外語大の跡地の公園で夕方5時から、消防の方々がいて、防災をしつつ、みんなでバーベキューとかするみたいなのをやっていて、要は、災害になるとベンチが開いて、火を使えて、そこへ焼きそばとか、バーベキューとかして、あと、流しそうめんとかスイカ割みたいにするという感じで、最後に消防士さんが近所のポンプとかで水を吸い上げて、放水して子どもたちに水を浴びさせてというのをやったりしているんですけど、そういうのは、僕も7月23日にあったんですけども、前日ぐらいに知って、こんなのがあったらいいなって家族で行ったりしたんですね。

それで、結構面白くて、みんな近所の子どもたちもたくさんいたんですけども、僕の仲のいい家族とかで、逆に同じマンションに住んでいるんですけども、知らなかったとかという、目の前の公園なんですけども、知らないとかというのがあるので、何かもうちょっと既存のそういういいコンテンツが既にあるのに、何か多分その人たちが引っ越してきている人たちなので、もうちょっと本当に工夫して、多分、どっちかという自治会のほうかもしれないですけども、ちゃんと周知するような仕組みとかをもうちょっと北区で整えたほうがいいのかというのと思いました。

非常にうちの自治会さんが結構頑張っていて、そういう地域交流とかも一生懸命やっていて、いいなとは思っているんですけども、こういったところは、ほかの自治会さんとかは、もし、やられているんだしたら、もうちょっとうまく促すような仕組みがあったらいいのかなというの、ちょっと思いました。

あと、次の若者による区政地域活動への参画・拡充というところで言うと、ちょっと若者の定義がどこまで具体的に指しているのか、僕もわかっていないんですけども、多分イメージ的には、20代、30代ぐらいのかなという、勝手な妄想をしています。

その中で、資料2で1ページであったように、転入と転出の割合がどんどんふえていっているのです。結構北区に定住、出ていく人もいれば、入ってくる人もいるのからどんどんふえてきている中なので、結構、どっちかという、どう北区に定着するというテーマにもちょっと付随してくると思うんですけども、紐づいてくると思っています。

そのときに、新しく入った人でも、こういう区政参画とか、地域活動したら、どういういい体験ができるのかとかという、何かそういう成功事例とか、成功体験がある人たちがいたら、何かそういうのをうまく宣伝塔にして、PRしていくというのは、やっぱりいいのかなと思っています。僕も、こういうのに参加させていただいていますが、じゃあ、その区の例えば、何かの活動にすると、何が実現できるのかと、実は僕もあんまりわかっていなかったりするので、そういうのも、うまく出したりとか、もしくは、そこは何か成功体験をされてうまくいった人みたいなのがいたら、そういった人たちをうまく北区新聞なのか、何かメディアを使ってやっていくと、北区に引っ越してきてこういうのに参画すると、こんないい思いができるみたいなものがつながってくると、もっともっと若者も参加するんじゃないのかなというのは思いましたというのが、基本目標Ⅱのところでは。

基本目標Ⅲのところは、これは、もう永沢委員もちょっとご指摘していたところがあったので、ほとんど僕もちょっとした意見ですけども、これは、若干総合的なところで、大学と連携してやっぱりちょっとビジネスの規模感にもよりますけど、あんまり大きくなったケースって、僕の勉強不足かもしれないですけど、あんまりイメージはなくて、大学と連携してうまくいったビジネスよりかは、むしろ民間企業と連携して、普通にベンチャーを支援していったとかというほうが、やっぱりいいのかなと。

特に、IT、ロボット、ヘルスケアってかなりマーケット規模が大きいので、ここに大学がくい込んで、結構マーケットをとってくるって、何かちょっとあんまりイメージがないなというのを思ったので、こういった分野だったら、むしろ、それこそベンチャーキャピタルとか、それこそ信金さんとか、そういったところは、積極的に既存の取引先とか、企業さんを連れてきて、そこは、ベンチャーを支援するような枠組のほうが、何かしっくりいくなというのが、思いましたということです。

以上です。

○会長

ありがとうございました。

それでは、越野委員、お願いいたします。

○委員

時間もあんまりありませんので、個別のお話というよりは、まず、全体のお話をさせていただくと、この北区役所の中におけるこの総合戦略の位置づけというのが、やはりもう一度ここまでのいろんなことが実施されてきて、動き始めたところだし、成果も一部出てきているところだからこそ、もう一度しっかりとやる必要があるんじゃないかなという気がします。

この中には、私と同じように、産業活性化会議のほうですとかにも出ている方もいらっしゃるし、あれなんですけど、お互いにその連携がよくわからないですね。

例えば、王子の駅前のグランドデザインなんかについても、これから実際にどう手を打っていくかという、庁舎をどうするかという話については、より具体的になっていくのだけど、全体の都市基盤をどういうふうにしていくのかというときに、この総合戦略との整合性とかどうするのという感じもするわけですよ。

それで、ですから、やっぱり僕は、区役所の中でもう一度そのところをしっかりと整理してやらないと、それで、産業活性化会議だけじゃなくて、一番やっぱり連携しなきゃいけないのは、単年度の事業ですよ。

特に、その都市基盤、これ、今、事業化に向けて検討を要するものの中に、「まちづくりの一層の推進を図り、北区の個性や魅力を発信する」というのがありますけれども、まちづくりというのは、当然都市基盤の整備が絡んでくるわけですから、そうすると、やはり単年度で例えば、土木部なら土木部が、やっていってしまうことというのが、本当にこれは、総合戦略にのっとっているのかどうなのかというのが、誰がコントロールして、その誰が検証するのかというのは、全然ここら辺から見えてこない。

だから、やっぱりそのところは、僕は、もう一度整理をしてもらえないと、ここでいろんないい意見が出て、もう実際に繁栄の度合いが120%、150%にはなりにくいんじゃないかなという気がして、ぜひ、これは、僕は、産業活性化会議でも申し上げていきますし。

それで、実は、その今井さんが言われた、既存のことでもいろんないいことをやっているじゃないのという話は、そこにも関連してくる話で、その整合性がとれてないから、何か絞り込めない。やたらに事業がふえていくという形になっていって、例えば、さっき、池本さんが冒頭おっしゃられたように、「子育てするなら北区が一番」に絞り込むんだとしたら、じゃあ、今、それでやられているものがどういう事業があって、どうやっているのか。

それから、この女性、若者、高齢者、この地域で支え合う仕組みづくりなんていうのは、町会もやっているし、町会との連携の中で社会福祉協議会もやっているわけです。

そうすると、内海さんもそちの会議にも出ていたりとかとやっているのだけど、だったら、それをもっと充実させたほうが、とりあえずのことは、早道になるんじゃないのとか、マンションの中で新たにそこに若い人に住んでもらってなんていうよりは、まちにも若い人がいるんだから、そういうふうにやらせたほうがいいんじゃないかなとか、何かやっぱりその全体の位置づけがはっきりしない。

それから、そこまで突っ込んで言っているのかわからないけど、区役所の中の権限のあれが非常に曖昧なものだから、何かそれぞれが言いつ放しみたいになっちゃうというのをすごく感じるので、そこをぜひ整理していただきたいというのが、まず、ございます。

それとあと、やはりシティープロモーション、さっき、今井さんがおっしゃられて、もう前日まで知らないかという話は、これは、そこかしこにある話で、「え、そんなのやっていたの」と、むしろ行けただけましなほうで、「え、1週間前に終わっちゃったの」みたいな話は、しょっちゅうあるわけで、この間も、オリパラのリレーションシップ協議会に出たときもそうだけれども、今度、千日前イベントってやるんですよ。今、いろいろプロモーションをしている企業もありますけど、11月に千日前イベントってやるんですけど、11月の十何日にやるんですね。

その広報をするのが、10月の末の北区ニュースだけだというんですよ。「何考えているんだ」と僕は、その会議で。盛り上げるためにやるので、そのイベントをやるということだけを告知するんじゃないんだから、やっぱりそういう楽しいこともやっている区ですよという、シティープロモーションのことも含めて広報ってやっていくわけで、そういう意味で、僕は、この前の会議のときからずっと申し上げているんだけど、シティープロモーションこそ、総合戦略における大きな命題のところに出てくる話なんであって、せっかく住めば北区でやっていたのに、今、ことしの予算書を見ると、このシティープロモーションという文字は、一つもなくなっているんですよ。残っているのは、総合戦略会議のこの部分だけです。

僕は、それじゃあ、やっぱり全体の活性化につながっていかないんじゃないかと思って、やっぱりその「子育てするなら北区が一番」、この事業としては、例えばこれをやる。そしたら、それをどうやって内外に対するシティープロモーションです。外に対しても宣伝するんだけど、うちに対してもこんないいことをやっているいいまちですよと言って、定住化を推進していくとかというような、常にシティープロモーションが全体に覆い被さっているみたいな、そういうイメージづくりのある総合戦略にしていきたいというふうに思います。

○会長

ありがとうございました。

続いて、遠藤委員。

○委員

遠藤です。大変おくれまして、すみません。

ということで、途中から伺っているのですが、ちょっととんちんかんなところがあるかもしれませんが、最初、質問なんですけど、これは、意見交換で黒ぼちがある、最初のシェアハウスの調査研究とか、これについて、この中身について意見交換をするということですよ。そうなりますと、その切れ目のない支援はいいんだけど、これだけのことですか、切れ目のない支援というのは、ほかにもいっぱいある中で、特にこれについて検討を要するという、そういうことですか。

○区

すみません。皆さんにきょう、お持ちすればよかったと思っているのですが、総合戦略の全体像っていう冊子、多分、これは、3月ぐらいに皆様にもお送りしていると思うのですが、この中に、それぞれ目標を五つ掲げておまして、その目標を達成するための施策というものが、整理をされています。

それで、実際、行われている施策もあります。

ただ、本日、ご議論いただきたいのは、これまでの経緯を踏まえて、皆さんからいただいたご意見で、地方創生につながっていくだろうというようなご意見をいただいた。それが、この黒丸でお示しをしているものです。

○委員

じゃあ、もうプロジェクトになりそうなわけですね、これは。

○区

まだ、事業化が具体化には至っていないものの、今後、もっと検討を深めていくべきであろうという項目でございます。

○委員

はい。じゃあ、あんまり発散しないように、これについてということだとは思いますが、じゃあ、若者の区政云々かんぬんは、なしですね、これ。関連施策が。

○区

いまのところ区として、取り組みがまだできていないので、これから実現化するに当たって、どうしたらいいかというような、もし、ご提案とかがあれば、いただきたいという意味です。

○委員

そうですね。はい、わかりました。どうもありがとうございました。最初に質問で申しわけありませんでした。

私、基本的に地方創生ということで、創生会議が出されたインパクトの高い言いぶりです。いろいろ動き出している。安倍政権が始まったときというか、今、こういう会議がある。

ところが、それがあっていろんなことが動き出してよかったんですけど、東京23区ってブラックホールかということですよ。合計特殊出生率がどんどん下がり続け、ついには1を切り、そこにさらに人が集まる。さらに子どもが少なくなるではないなということが、この最初のグラフで示されているのかなど。

これはもうちょっと見ますと、例えば、3ページですけど、全国も上がっているんですけど、これは、全国には、東京をはじめ、大都市圏も含めた数字で構成されているので、東京1都3県、あるいは愛知県と福岡県までですから、人口がふえているのが、あと、沖縄を入れれば、そのくらいなんだと思いますけど、その合計特殊出生率を外してしまえば、全国のその他は、もう悲惨なことになっているんじゃないですかね。

これは、一極集中を是正するとか、何とか言っているけど、今さらもうその地方のいろんなところに、じゃあ、子どもをふやしなさいといっても、全く投資効果ないのかもしれない。これは、かなり厳しい。これだけでそこまで言うのは、いかななものかとは思いますが、ですけど。

そう見ていいんですよ、池本さん、これ。全国と東京のこの全国もふえているし、東京もふえていると見るんじゃないかと、ちょっと落とし穴があるんじゃないですか。

○会長

これは、専門なんで、後でちょっと。

○委員

お願いします。

それで、やっぱり子育てということで、切れ目のない支援は、大いに結構だと思いますけど、本当に北区が得意なところってどこかなど。子育ての。最初のうちだけじゃなくて、実は、小学生まで。どこを狙いますかと、子育てのその切れ目のなさ。その先まで狙うのかと、定着・定住を目指して。

それは、実は、もうちょっと郊外のほうで持ち家を持ったほうが、そちらの自治体のほうが得意なので。

いやいや、そうじゃない。その人たちも戻ってきているのか。そこをもうちょっと調べた上で、どこを狙っていくのか。やっぱり産んでもらうところから狙うんだらうなど、もちろん思うんですけど。その先、どこまで。実は、小学校ぐらいまではいてほしいなと思うんですけど、小学校に入るときは、川口でも行ってとか、もっと遠くでもいいやとか、その流れが今、ちょっと逆流し出したんじゃないかなと思うんですね。

それで、そこまで、これは、あえて言えば、シェアハウスだけの調査研究なのかも、どこまでの子育ての切れ目のなさを狙うのか。ちょっと狙い目をしっかりしたほうがいいかなと思ったわけです。

それから、二つ目。きょうは、二つだけですが、URですけど。ひところ、特に赤羽台の建てかえなんていうときは、建てかえのために準備期間が10年かかるんですよ。そのぐらいの期間。その期間、何をやっているかという、空き家補充停止をやっているわけです。

つまり、空き家をふやすことで、建てかえやすくするということですから。公的住宅の建てかえて全部それです。

それで、これが大体収束しましたので、昭和34年団地が、建てかえということだったのだけ。それまで北区の人口減のかなりの部分を公的住宅の空き家が人口減に貢献に貢献していた。貢献というとおかしいですけど。これがとまりました。

それで、40年代は、リニューアルと言っているんですけど、そのときから比べれば、空き家の応募倍率が激減してしまっていて、それはそうです。2DKとか狭い住宅で設備も悪いです。

その結果、今、全国的にですけど、何が起きているかという、先着順受け付け。その先に何が起きたかという、特定の入居者の入居です。特定のというのは、子育てをする世帯とか、近居。結構多いんですよ、これは最近。

それで、そういうふう限定して募集できるようになったんです、逆に。それだけ住宅事業が緩和したということです。

だけど、残念ながら、定住には絶対なりませんね。絶対というとおかしいですけど。

だって、やっぱり狭いですし、それは無理ですよ。ここに定住しろといたって。

だから、言いたいのは、URみたいな団地をうまく活用して、子育て世代をちょっと優先するんですよ。家賃を下げるとか、そういうことをやり出したんだよね。そこをもっと広げてもらう。多世代交流とだけ言葉を書いておくには、害がないのでいいんですけど、実際に交流するものじゃなくて、いろんな話、住み出して初めて何か起こるかもしれないというぐらいの構えであって、もっとしたたかにこういう公的住宅の活用について、いろ

いろせっかく協定を結ばれたのだから、このI番の子育てとも絡めながら、どういう人たちに住んでもらうのが得意な区なのか、もう一回よく考えたらいいかなというふうに思います。

○会長

ありがとうございました。

じゃあ、岩崎副会長、お願いいたします。

○副会長

私は、基本目標Ⅱのところについて、ちょっと申し上げますと、この一つ目の丸と二つ目の丸と両方とも関係があるとは思いますが、板橋区の大東文化大学の事例を聞いたのです。たしか2年前に聞いたと思うのですが、高島平団地の空き室が結構あるので、それを低家賃で学生に貸す、と。

それで、学生にそこに住んでもらいながら、いろんな世代の人と交流をしてもらって、地域活動をしている。それが、何かうまくいっているということを知っていて、詳しくは聞いていないのですが、そういった例も参考になるかなと思いました。

それから、もう一つは、若者による地域活動への参画の機会の拡充ということで、考えてみたのですが、なかなかアイデアが浮かばないので、学生にちょっと聞いてみたのですね。

きょう、たまたま最後の授業があったので、リアクションペーパーのところにちょっとおまけなんだけど、こういうのをどう思いますかということをして100人ぐらいの学生に聞いたのですが、ちょっと時間が短いのと、書くスペースが余りないということから、あんまり深い内容のものは出てこなかったのですが、共通したことが幾つかありまして、一つは、地域活動という言葉に対するイメージが固定的、なおかつ、学生たちがなかなか捉えにくいので、堅苦しいとか、おじいちゃん・おばあちゃんのイメージだとか、あるいはイベント、それから、お祭りとか、そういうことで捉えているのですね。

それで、何をやりたいかという、自分たちが、大学生か就職してすぐであれば、企画とか、運営に関することをやりたいと。何か企画課の方が聞いたら、ちょっととんでもないと思うかもしれませんが、学生たちは、そういうように最初からかかわって何かをやらせてもらいたいということを書いていて、イベントとか、お祭りの運営の手伝いから、そんなことをやってみたい。例えば、自分たちがもしできるのであれば、商店街を盛り上げるイベントとか、そんなものも考えたい。

あとは、非常に出てきた言葉としては、SNSという言葉でして、インスタ映えのするものをやりたいとか、とにかく写真にアップしたくなるようなことに何かかかわりたい。このSNSという言葉は、何十人から出てきたのですね、100人中。

ですから、その辺のところ、情報発信ももっと考えるべきだとかいう意見も多くて、今の若い人らしいなと思ったのですが。

あと、4点目としましては、関心や意欲はなくてはならないけれども、自分たちでいきなりやることはできないので、授業でまず何かやってほしいと。その後、自分たちが入りますと。やっぱり教員が何かかかわらないといけないのかなと思ったのですが。そういう取

っかかりとか、きっかけが欲しいということですね。

それで、先ほど、お話が出ました、たしか2年前でしょうか。検討会と検討部会に、私のところのゼミ生が参加させてもらったのですが、非常に勉強になって、ああいう機会があれば、もっとやりたいということで、ほかの学生も言っていましたし、その学生はその後北区に関心を持って、埼玉県に住んでいるはずなのですが、今、北区で保育士をさせてもらっているかと思います。

ですから、やっぱりいろんな関心があるので、きっかけを提供すれば、若い人たちもやりたい、あるいはやろうかなという気持ちは持っているのかなというふうに思いました。

以上です。

○会長

どうもありがとうございました。私の司会の稚拙さで、ちょっと9時を過ぎてしまいました、私もしゃべりたいことがたくさんあるのですが、2点だけ、ちょっと簡単に話させていたきたいと思います。

先ほどの合計出生率、合計特殊出生率の話なのですが、あんまりこれは、短期的に上がった・下がったで考えてもしょうがない。2.07まで行かないと何の意味もないので、これについては、もう総合的にもっともっと上げていくという話なのだろうと思います。

それから、シェアハウス、どちらかというとそのシェアハウスじゃなくて、ショートステイというのはわかるのですが、シェアハウスまで行くというのは、すごいなというのが、ちょっと個人的な感想です。

最後は、人口の推移等についていろいろ紹介していただいたのですが、例えば、なぜこれだけ人が入ってきたのか。なぜその川口市が、今、北区で出ていくのが一番なのか。そこら辺をちょっと具体的に中身を少し調べていただくと、将来的に社会像という話のときの戦略になるんだろうと思います。ということです。

すみません。いろいろともうちょっとお話をしたいことがあるのですが、ちょうど21時というか、もう9時も過ぎてしまいましたので、このあたりで本日の議事を終えたいと思います。

どうも委員の皆様、ご意見をいただきまして、どうもありがとうございました。

最後に、その他について、事務局のほうからご説明をいただければと思います。

○区

本日もありがとうございました。こちらで、資料の準備等が十分でなかったところもありまして、申しわけございませんでした。

その他ということなのですが、今年度のこの総合戦略推進会議なのですが、本日ももう一回、合計2回の開催を予定しております。2回目につきましては、冬ごろということで、12月から2月の間で設定をさせていただきたいと思っております。

日程につきましては、早目にご連絡をさせていただきたいと思いますが、改めてご連絡をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○会長

はい。どうもありがとうございました。

それでは、以上で、第1回推進会議を閉会します。どうもありがとうございました。